

平成29年度 第9回小平市産業振興基本計画検討委員会 会議要録

1 開催日時及び場所

日時：平成30年1月30日（火）午前10時から11時30分まで

場所：小平市役所 5階 504会議室

2 出席者

(1) 委員

8名（浅見委員、小出委員欠席）

(2) オブザーバー

多摩信用金庫 長島地域連携支援部長、滝澤地域振興部長

(3) 事務局

市：産業振興課 板谷課長、増原課長補佐、石田係長、鎌田係長、十河、飯泉

多摩信用金庫：地域連携支援部 沼崎主任調査役、鈴木、松田

首都大学東京：都市環境学部 太田特任助教、URA室 中西

(4) 傍聴者

1名

3 配布資料

資料① パブリックコメントの結果について

資料② 産業振興基本計画案

資料③ 今後のスケジュール

4 内容(議事要旨)

(1) 議題

産業振興基本計画素案について

事務局から資料①および資料②を用いて、産業振興基本計画（案）について説明した。

(委員長) 今の説明について、質問や意見はあるか。

(委員) 事前送付された案と今説明があったもので変更はあるか。

(事務局) 内容に変更はない。

(委員) パブリックコメントについて、事前に見て思った事については、メモにまとめて事務局に送っている。その内容については、今まで申し上げてきた通りであるので、改めては説明しないが、2点確認したい。

1つは、応募者が男性1名と団体2組となっているが、この応募状況について事務局としてはどのように評価しているのか。

2つ目は、差し支えなければ、2団体についてどういった団体であるのか教えてほしい。

感想としては、パブリックコメントの質問にもあったが、検討・研究という項目について、今後どういう扱いにしようとしているのか、非常に気掛かりである。先送り

案とならないように是非お願いしたいので、検討・研究というのを、具体的にどのよ
うにやるつもりなのか、今の段階でよいので詳細を教えてください。

(事務局) 3名ということについて、市で様々な計画を作っているが、市民一人ひとりに直接
的なものは、件数が多くなることもあるが、他の計画と比較すると、そこそこの市民の
方にもご覧いただけているのかと思っている。

団体名については公表をしていないので、差し控えさせていただきます。

検討・研究という文言については、これから社会情勢が変わっていき、取り巻く環
境が変わっていくので、今の時点で決定していることについては明言しているが、社
会環境の変化の中で、考えていかなければならない事もある。そういった事はここ
では明言していないが、先送りではなく、様々な環境に応じてこれから検討・研究し
ていきたいと思っている。

(委員) 応募状況について、数についてはわかったが、例えばホームページにも掲載してい
るが、どれだけのアクセス件数があったか確認しているか。

(事務局) アクセス件数については確認していない。

(委員) 市民の皆さんがどれだけ産業振興計画なるものに対して関心を持っているのか良く
分からない。それを図るには、例えばパブリックコメントにこれだけの件数応募した、
とか、情報開示しているものにどれだけアクセスしたのか、ということかと思う。だ
からそういう情報を知りたいと思った。

(委員長) 委員の言うように、パブリックコメントだとアクセス数は重要かと思うので、もし
可能であれば調べてみてはどうか。非常に多ければ、非常に関心が高いという事にな
るかもしれない。

もし少なければ、なぜそんなに関心が少ないのか、情報開示の仕方が他にあったの
ではないか、と今後のためになると思うので、調べていただければと思う。

委員が心配したように、件数が少ないかどうかという事だが、東京都や国でも同じ
ような手法をとっているが、それから比べれば、多い案件少ない案件あるものの、今
回の件数は多くはない。ただ、何人コメントしたかということも重要だが、何件コメ
ントして頂いたかというようなことも非常に重要で、今回は3者だが、非常にコメン
ト数が多かった。

(委員) 3者均等ではないのでは。

(委員長) それは分からないが、件数ということも結構重要である。

3者が3件だけであれば非常に寂しい感じだが、非常に多くのコメントをいただい
たという事だと思う。いずれにせよ、もう少し課題としていきたい。

(委員) 3者からパブリックコメントがあったという事だが、前回の委員会の時に委員であ
ってもパブリックコメントをしても良いかと質問をし、構わないという事だったので、
3者の内1人は私であり、ほとんどが私のコメントになる。

私はこの産業振興基本計画を立案する事に対しては、市民とか、市内企業とか、市
役所がその計画書の中身を十分に理解されて、共有されないと作った意味がないと思
っている。計画書を読み進めていく上で、不明な点や誤解を招くような点はあっては
ならないと思っている。したがって、言葉は理解しやすい表現で記述されるべきであ

り、横文字は避ける事が望ましいと考えている。

その前に、反映する、反映しない、反映済みという言葉があるが、その他の一部反映と参考意見についてはどう理解すればよいのか。

(事務局) 参考意見は、計画の文面は変えないが、参考として意見を頂いたという事である。

一部反映については、頂いた意見の一部を計画の中で反映させて頂いた。

(委員) それでは、パブリックコメントの中身について話をする。時間がないため、配布するメモが作れなかったので、口頭で話をする。27項目について、1つ1つ話をして構わないか。1つ1つ回答するのか、全部話してから回答するのか。

(委員長) なるべく、かいつまんで願います。

(委員) 1番目は4ページ目の「東京区部～集積の拡大」という事での市外消費流出が不適切とコメントした。小平市内の市民の購買行動は、食料品や日用品といった最寄品を市内と隣接した地域で購入しているのが実態である。アンケート結果からもこう書いてある。区部の商業集積拡大に影響されるのは、買い回り品という認識に間違いはないと思う。市内には買い回り品を買う場所は見当たらない。90年以降、当時から市内に買い回り品を買う場所は無かったという認識を持っている。したがって、区部への商業集積を理由とすることは不適切と書いた。この事について市の見解を聞きたい。

2番目は5ページの「宅地」は不適切と書いた。住宅地に訂正すべきである。宅地とは、建物の敷地に供せられる土地であり、住宅に限定されないと認識している。市の意見を聞きたい。

3番目10ページの「住環境」も住宅の内部環境であり、建物の外部環境は居住環境であると認識している。

19ページ目、求人が困難とあるところについて、求人が困難である理由の解説が必要とコメントした。市は反映しないということだが、仮説であっても理由を提示しておくことが今後の産業振興に繋がると思う

(委員長) もう少し、委員会の場合なので、パブコメに対する意見のやりとりではなく、全体を通して、反映しないところどうしてくれといった所でまとめて頂きたい。

(事務局) たまたま委員がコメントしたご本人であるが、委員会はコメントの当事者とやり取りする場ではない。委員としての意見を聞いている会議である。

(委員) 私はパブリックコメントの提出者であると同時に委員でもある。市の資料を見ながら回答が不適切な所を申し上げている。

(事務局) 不適切な回答として、委員会として訂正すべきという所があれば、他の委員の意見も聞いた上で対応を考える。

(委員) 先ほどの住宅地とか住環境の話は、専門ではないので分からないが、委員の言うとおりであれば対応すべきだと思う。だから、優先順位をつけてほしいという事であれば、個人的な意見で恐縮だが、委員は先ほど言った間違いを優先的にまず説明されてはどうか。

(委員長) とりあえず、委員が見た時にこれだけは改善してほしいという所があれば、そこを中心に少しご指摘いただければと思う。

(委員) 例えば、28ページの「調査結果～できます。」と書いてあるところは、3つの関係

に対する説明が必要だと思う。市は横断的に分析して3つの関係と書いているが、横断的に分析するとなぜ、3つの関係が導きだされるのか分からないので説明がほしい。ここではやはり、分析視点の設定から対応することが望ましいと思っている。

(委員) それはすでに過去に議論しなければいけない項目ではないか。

(委員) 以前から何度も市に資料を作って渡している。したがって、この場で市の意見を求めたい。

(委員長) 他にこれだけは、ということはあるか。

(委員) 今説明のあった、「ギャップ」のところも、どのようなギャップがあるのか、一例を書き加えればより分かりやすくなる。

30ページの将来像のコピーは、無理矢理「職」と「食」を結びつけていると思う。「産業とくらしが共生」は「しょく」には直結しない。もっと市民や関係者に小平の環境のポテンシャルが無理なくストレートに理解され、振興イメージが彷彿されるようなコピーがふさわしい。

また、マーケティングやブランド構築など、できるだけ理解しやすいという事からすれば、横文字は避けた方が良くと申ししたが、市はどういう意味でこの言葉を用いているのか。

(委員長) とりあえず、28ページの3つの関係に対しての説明が必要という事についてはいかがか。3つの関係というものが、どう反映して、改善されていくのか、という点についてもう一度説明を。

(事務局) 基礎調査は産業振興のそれぞれの主体である市民、事業者、農業者に聞いているが、その結果から出てきた回答を突き合わせてみると、それぞれ相互に関係し、応答しあっている関係が見えてきたという所から、こういった切り口になっている。

(委員) 私もこのまとめはいかがかと思うが、市の立場に立っていうと、(1) 事業所と市民の関係、(2) 事業所と地域社会の関係、(3) 市民と農家の関係という切り口で取り組みたいという事を言っているのではないか。

(委員) アンケート調査とヒアリング調査結果に基づいて、現状について検討して出てきた結果が3つの関係だとすると、「3つの関係から以下の点が指摘できます」という文章は分かりづらい。「3つの関係性が表れてきました」とかももう少し分かりやすく簡単に書いた方が、シンプルに伝わるのではないかと思う。

(委員) 私は分析視点だとか、委員の言った切り口だとか、ある項目を設定した中で3つの関係を作って説明していくという事であれば理解できるが、横断的にという話になってくると分からない。

(委員長) そうしたら、「これらの調査結果を横断的に分析すると、3つの関係から以下の点が指摘できます」という所については、少しその文章を変えろという事でよろしいか。それについては委員長・副委員長の方にお任せいただきたい。

(副委員長) たとえば、「これらの調査結果を3つの関係から分析すると、以下の点が指摘できます。」ではどうか。

(委員) なぜ、3つの関係を作ったのか。

(副委員長) 3つの視点から、でも良いと思う。

(委員長) そういった事を軸に修正させていただく。

それから、委員から指摘された30ページは以前からこの委員会で検討していた点だが、事務局の方でまた説明を。

(事務局) パブリックコメントを受けて、委員長・副委員長も含めて再考したが、「産業とくらしが共生し」というのが1番大きなキーポイントとなるという事になった。そこでその部分を強く表に出し、「しょく」があふれるまち こだいらということで、農業振興計画の目標でも含めており、これからプチ田舎として、農のあるまち、「しょく」という事が大切だという事で、文章は変えないでいる。

(委員) 農業振興計画の関係からか。

(事務局) それも含めるが、これまで議論して頂いたことなので、パブリックコメントをもって変えるという事は考えていない。

(委員) 市役所の中でも評判がいいのか。

(事務局) この部分については議論になっていないが、市と委員長・副委員長も含めてこれで行くとしている。

(委員) 市長は知っているのか。

(事務局) 話をしている。

(委員長) 他の委員からはいかがか。

(委員) キャッチコピーのフレーズとしては、この計画の内容にマッチしているかなという所では、私としては良いと思っている。

(委員) ちょっと長いかな、という気はするが、述べるべきものは全て述べていると思うので、いいと思う。

(委員) 私は、前回からこれについてはこの形でいいのではないかと思う。「産業とくらしが共生し」というところが太字で入っていて、副テーマとして職と食というのは問題ないと思う。そのあとの説明については、こじつけのような気が少しする。

(委員) パブリックコメントの検討結果で説明があるので、納得している。「しょく」という所が農業という部分に単純に結びつくのだろうか、というところは少しある。

(委員長) 「マーケティング」「ブランド構築」「マネジメント」という横文字がよく分からないという事について、用語解説があれば良いということか、それともこういった言葉を極力使わないで日本語に置き換えてほしいということか。

(委員) 一般的に使われている単語には用語解説を設けていないということだが、一般的に使われているという事は誰が聞いても理解できるという事と取れる。何回も申し上げているが、できるだけ英語や横文字は避けようと、日本語で書けるなら日本語で書いた方がいい。これらの単語を10人が10人同じ理解ができるのか。違った理解をされたら困るから、訂正する、あるいは注釈を付けた方が良い。

(委員長) 次は。

(委員) 第5章の産業振興の目標の所の「産業相互間の結びつき」というところで、内容をよく見ると部門別の記述となっている。産業連携というものの、農業振興の深化であって、とても産業全体における産業相互間の結びつきには程遠いと認識している。

次の34ページの取り組むべき課題の所の、「小規模な～個店の構成」という表現が

あるが、これは表現が短絡的だと思う。少し筆を加えないと理解されないと思う。原因の一例とするのは不適切である。規模が問題ではなく、商店街周辺の住民密着となっていない、地域住民のニーズに応えていないことが主な原因だと理解されないとまずいと思う。

同じく、「人と人が～消費が生まれる」という表現も短絡的だと思う。人が集まれば消費が生まれるというのは非常に間違っていると思う。ここでは商店の稼ぐ力、販売力に関する内容を記述すべきだと思う。ショッピングセンターの例を見ると、1つのショッピングセンターに年間1000万人の人が集まるけれど、年間1割程度のテナントが、売上が上がらず退店していく。これと同じ図式が考えられるため、やはり規模ではなく販売力、稼ぐ力の記述をするべきである。

第8章の産業振興プログラムで「本計画の要」と言っているが、要と要でないものの違いは何か、「特に中心となる」と変わったが、中心とは一体何なのかよく意味が分からない。事業活性化効果や、経済波及効果という事を重視した時に、この施策が中心となると理解すれば、「特に中心となる」という言葉は生きてくると思う。

次に、検討します、研究しますということが施策だとは理解しにくい。仮に産業振興施策を投資的と経費的というように分けて考えたとすれば、この研究する、検討するという事は投資的な施策になると思う。そうであれば、先行きや投資効果を提示するという事が、計画を読み進めていく上での理解が得られると思う。

「新しい産業の振興にも注力」とあるが、新産業の創業支援では「検討します」とあり、注力＝検討＝施策なのか疑問が残る。市の検討結果に「新中期的な施策の取組方針・実行プログラム」とあるがこれは私には分からない。注釈が必要なのではないか。

49ページの公共交通機関の所について、何度も申し上げている通り、商店街間の移動ということは、小平のような住宅地における商店街、地域密着型の商店街ではなかなかないと思うし、直面したこともない。なぜ商店街間の移動を高める必要があるのか、疑問がある。買い回り品の購買行動では移動は十分にありうるが、市内には買い回り品を買う場所はない。したがって、商店街間の移動は何か仕掛けがあれば別だが、ニーズもたぶんないし、こういう表現は不適切であると思う。

全体については、1つは「マーケティング」や「ブランド構築」や「マネジメント」とかについての先ほどの意見。

もう1つは、施策の参考事例の紹介が望まれる。農業振興計画は事例が紹介されており、中身が理解しやすいと感じた。

63ページの計画の推進体制について、市の検討結果は不適切ではないかと思う。店舗数をKPIに設定したのは非常に誤解を生じると思う。例えばある商店街で10店舗廃業したが、新しく3店舗開業した場合どう評価するのか。やはりここでは、来街者数や商店街全体の売上といった数字をもって、活性化や振興を理解すべきだと思う。なかなかそういった調査をし難いということだが、多くの自治体でこういった調査をしており、なぜ小平市でできないのか理解できない。

やはり今後10年間の事業環境がどう変わっていくのか、市としての展望が必要な

のではないかと。その時代なりに事業環境が変わる訳で、その変わり方に対して、この施策をどうアレンジしながら進めていくのか、時代の移り変わりを市はどう把握し捉えているのか。事業環境の変化を産業振興課はどういう風に捉え、振興に活用し結びつけていくのが重要である。

もう1点、他から産業を誘致する要素が非常に薄かったと感じた。市内での起業創業型ではなく、市の産業計画に貢献する外部の企業誘致が市の産業振興にとって重要な点である。誘致のコンセプト、あるいは戦略や戦術に基づいた企業誘致の展開や記述が必要である。今回の施策には反映されていないが、市としては外部の企業誘致についてこういう展望を持っていますという事を報告書の中には入れておくべきだと思う。

(委員長) 時間も限りがあるので、委員から提出して頂いた、不適切であるとか不十分であるとかという所については、委員としての意見として受け止めて、改善するようにさせて頂くようにするが、全体を通しての事業環境の変化であるとか、事業所に対する展開という所については、委員会ではあまり議論されていないし、事務局として意見はあるか。

(事務局) 企業誘致については、大きな工場があったところは用途地域や種地のような所もあるので、研究施設など小平にあったような産業の誘致ができるのかと思うし、これからの時代の変化に伴って、産業振興に対する社会的保障ということもあるので、委員会の意見として受け止めていきたいと思う。

(委員長) 全体を通して、他の委員から意見はあるか。

(委員) 追加で検討してほしい点は特にない。小平で職と食というところ、農業地域が多いというところを踏まえたバランスのとれた計画であると思っている。

(委員) せっかくキャッチコピーがあるので、表紙にインパクトのある言葉を、キャッチコピーを載せることも、今後読んでもらい活用していくために大事なのかと感じる。

公共交通機関を活用した回遊性の向上という事で、例えば将来的に、高齢化が進む中である程度移動手段というものもシステムができれば、新しいニーズを還元できるかもしれない。そんな要素も生まれてくると感じている。

(委員) 私は市内回遊を否定している訳ではなく、あるべきだと思う。しかし、この報告書の中で、商店街間の移動というのが出てくるので、それはないという意見を申し上げた。現在のコミュニティバスについては評価している。

(委員長) 今言われたことも重要なポイントになるかと思うので、まとめには配慮させていただく。

(委員) 商店街のKPIで商店数を書いてあるが、今後商店数は絶対減少していき、増える事は期待できないので、委員が言うように、多少売上とか販売額等も記入してもよいのではと感じた。

(委員) 子どものころから小平市に住んでいるが、小平市を産業という視点で見たことが全くなかった。こうして見てみると小平って意外と色々なことがあるのだなという事が分かった。

61ページの多様な保育サービスの充実という所で、1、2年は検討して実行する

のは数年後という事になるのか。

(事務局) 昨年あたりから様々な施策が打ち出されているので、1、2年の間に整備されることを受けて、情報提供していくという事だ。

(委員) まだ検討されていないのであれば、もう少し早くしてほしいと思っただけである。

市内のコミュニティバスやコミュニティタクシーは良く使うので、商店街間での移動というのは実際に買い物で商店街を梯子する事はないと思うが、商店街の近くの施設に行きたい時も使うので、充実が図られると赤ちゃん連れや自転車に乗れない人、車がない人にとって、そういう手段が増えるのは助かると思う。

(委員) 意見はたくさんあるが、メモも提出したので。

去年の夏ぐらいに事務局にIT企業の経営者に一緒に取材に行かないかと誘ったが実現しなかった。産業というものは小平市だけでなくグローバルなものであるから、どんどん外に出かけて行ってほしいと思う。ICTについては、ITでもICTでも良いが、産業振興について考えるのであれば、どんな団体であれ、自治体であれ、関係しているはずである。それをなぜ産業振興という形で、1つの柱として入れないのか。そういった事も含めて、事務局との間で意見交換ができなかった点が残念である。

(委員) 事業者の方たちがこの産業振興基本計画に対して関心が薄いので、この計画が置いてきぼりにならないように、商工会としても尽力したい。

ここ10年の環境変化について、人口が減少していく事に対して、産業振興計画でどういう風に対応させていくのかという事がもう少し必要だったような気がする。

(委員長) この産業振興基本計画を作る上で、検討委員会というのは大事であり、委員の発言は重いものがある。皆さんの意見を受けて、少しまた修正をしていきたいと思う。修正したものについては、委員長・副委員長に一任して頂ければと思うが、良いか。

(委員) ファイナルの作業に取り掛かるという事だが、その作業をやる中で大切にしてほしいのは、文章を読み進めて行く上で、多くの人に理解されて、共有されて、実施に移れるという形を十分重要視して取り組んで頂きたい。本報告書は誤解を招きやすいという事が多々ある。

(委員長) 十分肝に銘じたい。最後にオブザーバーからコメントを。

(オブザーバー) 色々な意見が出て、ある意味面白い会議だったと思う。私も色々な所で産業計画と一緒にやってきているが、作って終わりのような所も結構あるので、1つでも2つでも来年何をやるかがすごく重要だと思うので、具体的にやっていくことが必要だと思っている。

(オブザーバー) 2年間ご検討いただき、ありがとうございます。向こう10年間の計画であり、この後庁内で決定していく。先ほど環境の変化ということがあったが、今朝西武線に乗った時に拜島ライナーのPRチラシを配っていた。車内を見るとつい10年前は新聞や漫画雑誌を見ている人が多くいたが、今はスマートフォンを見ている。世の中の変化は非常に早く、それをどう取り入れて、どう暮らしていくのかという事になるかと思う。少子高齢化が進む中で、小平に住み続けて頂き、住んでよかったと思って頂くように、この計画を進めて参りたいと考えている。本当にありがとうございました。

(委員長) 本日の議論を基に、先ほど言ったように修正を加え、なおかつ分かりやすい、ある

いは市民の皆さんにきちんと理解ができるような完成版を作成する。
最後に事務局から連絡事項を。

(2) その他

今後の日程等について

事務局から、資料③を用いて、今後の日程等について説明した。

(事務局) 本日は最後の検討委員会である。委員長・副委員長から一言頂戴したい。

(副委員長) 2年間ありがとうございました。この委員会に参加して、知らなかったことがたくさんあったと改めて思った。他の近隣の多摩地域に似たような市がたくさんある中で、小平の特色としては農地を含めた緑の多さや学園の存在の大きさが前に出てきた。そういうものを示しながら、これからの産業振興を進めていくことを期待する。

(委員長) 2年間ありがとうございました。私がこの委員会の委員長を引き受ける時に、ある委員から言われたのは、いつもの委員会のように、結果が出てきて、それをあまり議論しないで、そのまま消滅するような委員会だけにはしないで下さいと言われた。

それでなるべく私も手作りでこの計画を作成したいと、なるべく皆さんの意見を反映しながら、あるいは市と大学とたましんと皆さんと1つ1つ手作りやっていくという事で、なかなか結果としては、皆さんの意見が反映されなかつたりしているかと思うが、私としては、従来の委員会と違って、色々意見を言っていたとき、それが反映されている手づくりの計画ができたと思っている。

ただ、先ほど言ったように、出来上がっただけではダメであり、これをどういう風にこれから使っていくのか、これを浸透させていくのか、市としてのお手並みが問われる所かと思う。皆さん厳しい目で、ちゃんとこれが実行されるかを見て頂ければと思う。

それでは、本日の委員会をこれで終了する。

以 上